

母乳通信 第7号

母乳通信は、しんしろ助産所の母乳育児に関する考え方と手技をまとめた通信です。
母乳で育てたいプレママ・ママを応援します。

《授乳とくすり》

授乳をしているお母さんでも、病気になれば薬を飲まなくてはならないこともあります。お母さんの飲んだ薬が母乳を通して赤ちゃんに移行すると何らかの影響があるのでは・・・と心配され、薬を飲まずに我慢したり、薬を飲むなら母乳を中止したりしていることがあるようです。しかし赤ちゃんにとって母乳は大切な栄養源であり、かけがえのないものです。そのため、母乳のメリットと薬の影響を秤にかけた判断が求められます。一般的に薬剤が母乳に移行する量は、お母さんが飲んだ薬の1%以下と極めて

微量といわれています。

多くの場合、薬を使いながら母乳育児を続けることができます。心配な場合や迷う場合は、産科医師・薬剤師・助産師に相談しましょう。

☆赤ちゃんにとっての母乳のメリット

- ・栄養のバランスが最適である
- ・消化・吸収・排泄がよく、内臓の負担が少ない
- ・免疫物質がある
- ・アレルギーのなりにくい
- ・成長に応じて成分が変化する
- ・お母さんとのスキンシップができる など

☆お母さんにとっての母乳のメリット

- ・子宮の回復を早める
- ・産後のダイエット効果が高い
- ・経済的で手間がなく、いつでも授乳できる
- ・月経再開を遅らせる
- ・乳がん、卵巣がんなどになりにくい
- ・赤ちゃんとのスキンシップができる など



《赤ちゃんに有害な影響を及ぼすおそれのある薬》

◎抗がん薬 ◎免疫抑制薬 ◎放射性物質

などの薬です。母乳へ移行する量が多くて赤ちゃんに影響が出る可能性のある薬を除き、風邪などで短期間に通常の量を飲む場合であれば、使用可能なものがほとんどです。

アメリカ小児学会やWHO(世界保健機構)の調査 2001.9

☆お母さんが薬を服用して授乳を続ける場合は、薬を飲む直前あるいは直後に授乳をすれば、赤ちゃんへの影響を少なくできます。

☆気になる点や不安なことがあれば、医師や薬剤師、助産師にご相談ください。